

2022年7月24日(日) 狭山キリストの教会 礼拝説教

テキスト：ヨブ記 24章

タイトル：「神の沈黙」

はびこる不条理

24：1-17 ヨブは目を自分自身から社会に転じ、神がさばきの時を定めておられるはずなのに、なぜそのさばきが行われている事実を見ないのかと疑問を投げかける。そしてその実例として、2-8節では貧しい人々が土地や家畜を強奪されている事実、9-12節では貧しい人々が奴隷にされている事実、13-17節では人殺しや盗人や姦通する者がのさばっている事実を挙げる。(新実用聖書注解)

ヨブ記 24:1 なぜ、全能者に時が隠されていないのに、神を知る者たちには神の日々が見られないのか。

〈時〉(1)も〈日〉も神のさばきの時、日。(新実用聖書注解)

悪者の横暴(2節～4節)

ヨブ記 24:2 人々は地境を動かし、群れを奪ってこれを飼う。

2節：地境を動かし：土地管理の十分でなかった古代の一般的な悪。普通地境のしるしは石塚であって、容易に移動させることができた(申命記 19:14等)。(チェーン式)

搾取される人々(5節～8節)

ヨブ記 24:5 その人たちは荒野の野ろばのように、働きに出ては獲物を探す。荒れた地で、子たちのために食べ物を探して。

〈荒野の野ろば〉(5)は荒野に追われた人々の比喩。〈捜し回り〉の原語には「夜明けから捜す」という意味が含まれている。(新実用聖書注解)

ヨブ記 24:7 着る物もなく、裸で夜を明かし、寒さの中でも身をおおう物が無い。8 山の嵐でずぶぬれになり、避け所もなく、岩を抱く。

奴隷となった人々の悲惨な姿(9節～11節)

ヨブ記 24:9 みなしごは乳房から引き離され、貧しい者が持つ物は質に取られる。

みなしごを乳房からもぎ取るのはこれを奴隷として売ることを意味する。また貧しい者が持ち物を質に取られたならば、次は自分の身を奴隷として売る以外にはない。10、11 節は奴隷の労働を描いたものである。(新聖書注解 ヨブ記 p.92)

ヨブ記 24:10 着る物もなく裸で歩き、飢えながら麦束を運ぶ。11 オリーブの植え込みの間で油を搾り、踏み場でぶどうを踏みながらも、なお渴く。〈酒ぶねを踏みながら、なお渴く〉(11)。酒ぶねの中いながら喉をからからにして働く惨めな奴隷の姿。(新実用聖書注解)

ヨブ記 24:12 人の住む町からうめき声が起こり、傷ついた者のたましいが助けを求めて叫ぶ。しかし、神はその叫び声に心を留められない。人間の悲惨に対する神の無関心を訴えている(新聖書注解 ヨブ記 p.92)。

暗闇のわざ(13節～17節)

ヨブ記 24:13 これらの者は光に背く者。光の道を認めず、光の通り道にとどまろうとしない。14 人殺しは、光のある間に起き上がり、苦しむ人や貧しい人を殺して、夜には盗人となる。

ヨブは悪の具体例として、殺人(14)、窃盗(14、16)、姦淫(15)をあげる。これらはいずれも、人目を忍んで行われる犯罪である。(チェーン式)

暗黒が朝である：夕方になって活動を開始する悪者の行動を比喩的に描く。(チェーン式)

● ヨハネ 3:19 - 21

悪人への究極的なさばき(18節～)

ヨブ記 24:18 彼のような者は水の面をすばやく通り過ぎ、彼らの割り当て地はその地でのろわれる。だれも彼らのぶどう畑の道に向かわない。

ヨブ記 24:19 雪が日照りと暑さで跡形もなく消えるように、罪人は死ぬと影も形もなくなる。20 生みの親さえ彼らを忘れ、うじ虫が湧いて、彼らを食い尽くす。二度と人の話題に上らない。罪人は、強風を受けた木のようにへし折られる。21 頼りになる子どものいない者を食べ物にし、貧しい末亡人を助けなかったからだ。(リビングバイブル)

神の正しい統治への疑問(21～22節)

ヨブ記 24: 22 彼は力をもって、権力者たちを引きずり降ろす。彼自身は台頭するが、自分にいのちのあることが信じられない。

悪人自身がもはやこれまでと思っても、神がその命を引き延ばされるので、再び立ち上がることができるという意味である。(新聖書注解 ヨブ記 p.93)

神の沈黙(23節～)

ヨブ記 24:23 神が彼に安全を与えるので、彼は支えられる。しかし、神の目は彼らの道の上に注がれる。

〈神の目は彼らの道の上に注がれる〉(23)。この訳だと、神の守りと祝福があるという意味だが、新共同訳は「安穩(あんのん)に生かされているようでもその歩む道に目を注いでおられる方がある」と、反対に、神がさばくために見ておられるという意味に取っている。(新実用聖書注解)

ヨブ記 24:25 今そうでないからといって、だれが私をまやかし者だと言えるのか。だれが私のことばをたわごとと見なせるのか。

結論的な言葉でヨブは友人たちに挑戦している。ヨブの立場は、人の生活の現実を、その生と死において、事実即して述べたものであり、応報説によって一方的に割りきった見方はできないというものであるから、理論倒れにはならない強さがある。この節にはヨブのそのような自信がうかがわれる。(新聖書注解 ヨブ記 p.93-94)

【メッセージ】「神の沈黙？」

- 24章のテーマ：この世の中に現存する社会悪に対する疑問。
- なぜ善良な者に災いが襲い、貧しい者が虐げられるのか？なぜ神は放置されたままなのか？ヨブは自分の不遇についてだけでなく、社会の中の矛盾についての疑問を神に向ける。

神は沈黙しておられるのか？・・・聖書は何と語るか？

● 黙示録 6:9-11

マタイ 10:28 からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れなさい。

へブル書 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、

- 神のさばきの弓が徐々に大きく引かれている。そして、頂点に達した時、神のさばきの矢が放たれる！
- 黙示録 2章7節～11節